

OBI 後援会・同窓会 NEWS LETTER



No.39

2015年7月発行

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル2F TEL.03-3296-1005 FAX.03-3296-4641 発行者 藤原 導夫 編集者 有田 貞一

「OCCお茶の水聖書学院 後援会・同窓会」発足のお知らせ

会長 有田 貞一 [3期生]



主の御名を賛美いたします。いつもOBIの働きのために、祈り、励まし、支えてくださっておりますことを感謝しております。

この5月18日に、OCCお茶の水聖書学院同窓会の総会とOCCお茶の水聖書学院後援会の総会が開催され、両者が一つに統合されることが決まりました。会の名称は「OCCお茶の水聖書学院後援会・同窓会」です。

会員は、正会員と賛助会員に分かれます。正会員は卒業生とアドバイザー（学院長）で、総会に出席し、議決権を有します。賛助会員は、OBIの働きに賛同する個人（OBI教職有志、OBI学院生（聴講生も含む）有志、OBI外の個人等）、および団体（教会、企業その他）で、国内外を問いません。

卒業生の親睦を深めると同時に、献金の拡大に努め、OBIをサポートしていきたいと願っております。

献金の方法は、次の3つです。

- (1) 同窓会費：年3,000円 正会員有志
- (2) 維持献金：ゆうちょ銀行への自動振込み方式。対象は、正会員有志、賛助会員有志。

会の名称は変わりましたが、従来通り自動振り込みされますので、現在、維持献金されている方々は、新たに手続きをする必要は、一切ありません。

新たに維持献金に加入ご希望の方、または金額変更をご希望の方はご連絡ください。

- (3) 任意献金：旧後援会で、「協力献金」と称していたものが、「任意献金」と名称が変わりました。対象は、正会員、賛助会員です。

詳細は添付の「OCCお茶の水聖書学院 後援会・同窓会規約」をご参照ください。新役員は以下の通りです。新役員の働きのために、お祈りいただければ幸いに存じます。

- 会 長：有田 貞一（3期）
副 会 長：戸川 偕生（11期）
総 務：倉内 一壽（19期）
会 計 主担当：石井 由紀（19期）
担当：鬼京 由紀子（20期）、奥津 榮子（22期）
永澤 良子（22期）
食事担当執事：福井 ちよ（12期）、吉村 瑠美子（14期）
会 計 監 査：芳賀 功（11期）
アドバイザー：OBI学院長

OCCお茶の水聖書学院 後援会・同窓会規約

OCCお茶の水聖書学院の後援会・同窓会の規約を下記のよう定める。

1. 名称

OCCお茶の水聖書学院 後援会・同窓会（以下、「会」と言う）

2. 所在地

東京都千代田区神田駿河台2-1OCCビル内

3. 目的

OCCお茶の水聖書学院（以下、OBIという）の教育と研究の活動を後援し、日本の福音宣教の推進に寄与する。また卒業生の親睦推進を図る。

4. 会員

- (1) 正会員：卒業生、アドバイザー…総会に出席し、議決権を有する。
- (2) 賛助会員：OBIの働きに賛同する個人（OBI教職有志、OBI学院生（聴講生も含む）有志、OBI外の個人等）および団体（教会、企業その他）。いずれも国内外を問わない。

5. 組織

次の担当役員において運営する。主たる業務は次の通り。

- (1) 会長1名…会全体の運営管理と賛助会員の拡大に努める。
- (2) 副会長1名…会長の補佐、ニュースレターの発行、慶弔管理
- (3) 総務1名…総務の事項全般、総会、役員会の議事進行

- (4) 会計4名（主担当1名、担当3名）…会計および名簿の管理と保全

- (5) 食事担当執事2名…主に総会等における食事担当

- (6) 会計監査1名…会計監査業務

- (7) アドバイザー（OBI学院長）…会に助言し、特に賛助会員の拡大に努める。

その他、活動状況等により、適宜補強する。

6. 事業

- (1) OBIに対する資金援助
- (2) 広報活動（OBI後援会・同窓会ニュースレターの発行、ホームページの運営）
- (3) 卒業生相互の親睦（折り合い、励まし合う。研修旅行等）
- (4) OBI協力（OBI各種行事への参加。OBIに関する情報の提供）
- (5) 賛助会員の拡大

7. 会費および献金

- (1) 同窓会費：3,000円／年振込
対象者：卒業生有志
- (2) 維持献金（毎月自動振り込み）：一口1,000円／月・一口以上
対象者：正会員有志、賛助会員有志…自動払込利用申込みが必要。
- (3) 任意献金：献金額は任意かつ随時献金可。
対象者：正会員有志、賛助会員有志

8. 役員の選出および任期

- (1) 選出：総会による。
- (2) 任期：1期2年とし、2期までとする。

9. 会議

- (1) 定例総会 年1回以上（原則として、5月第三月曜日11時～14時）
- (2) 臨時総会 必要に応じて随時、開催する。
- (3) 定例役員会 年3回以上（4月、8月、2月…）。
- (4) 臨時役員会 必要に応じて随時、開催する。

10. 決議

- (1) 総会決議：委任状を含む出席者数の過半数をもって可決する。
- (2) 役員会決議：出席者の過半数をもって可決する。

11. 会計年度

- 4月～3月とし、総会にて決算報告、監査報告を行う。

12. 規約の改正

本規約の改正は、総会の議決によるものとする。但し、緊急に改正する必要が生じた時は、役員会で議決することができるものとする。

沿革

2015年5月18日：同窓会総会および後援会総会において、議決。
2015年5月21日：後援会・同窓会役員会において一部修正。

2013年に役員会を結成して2年間、いつも8名が一つになってOBIの草創期から危機の時代そして今を確認しながら、明日への夢を語り合い、できることを模索してきました。

昨年2014年は、OCCとの統合という節目を迎え、先頭に立たれる藤原導夫学院長はじめ学院のために祈り、動向を注視してきました。

今年、一期2年を終えて、今後のことは新しい体制に繋げるのがみこころであると同で確信し、働きを終えることに決意しました。短期でしたが愛する母校OBIの働きに参加できたことを身に余る光栄と感謝しています。新しい「後援会・同窓会」がさらに主のためOBIのためによき働きをされますように祈ります。

2015年6月20日

旧後援会役員会

会長：三浦 喜代子、副会長：戸川 偕生・芳賀 功、総務：（書記）米田 由起子、会計：杉山 礼子・浪井 弘子、

会計監査：田中 恵子、監事：中島 總一郎、オブザーバー：藤原導夫師

2015年度 OBI後援会・同窓会 会計予算案

旧後援会、旧同窓会の2014年度決算報告書に基づき、一部見直し作成した、2015年度のOBI後援会・同窓会の会計予算案をご報告します。

OBIのため有益に用いていきたく、ご指導・ご協力をお願い申し上げます。

(2015.4.1～2016.3.31)単位:円

収 支	項 目	旧後援会前年度実績	旧同窓会前年度実績	後援会・同窓会今年度予算
収 入	前年度繰越金	812,128	213,638	514,084
	同窓会費	0	117,000	170,000
	維持献金	708,000	0	750,000
	任意献金	263,000	65,000	400,000
	OBI後援会・同窓会総会費	0	36,900	40,000
	広告収入	30,000	0	0
	雑収入（預金の利息等）	249	25	0
	収入合計	1,813,377	432,563	1,874,084

収 支	項 目	旧後援会前年度実績	旧同窓会前年度実績	後援会・同窓会今年度予算
支 出	事務・消耗品費	14,962	0	20,000
	印刷費	129,600	113,388	200,000
	通信費	24,098	45,195	70,000
	活動費（会議・交通・慶弔）	183,313	109,478	200,000
	OBI協力献金	1,000,000	100,000	1,100,000
	雑費	6,822	5,000	20,000
	予備費	0	0	264,084
	支出合計	1,813,377	373,061	1,874,084
	次年度繰越金	454,582	59,502	

内訳 *事務・消耗品費は、会内で使う物品の購入代

*印刷費は、印刷会社に支払うニュースレター・はがきの印刷代

*通信費は、郵便局に支払う郵便・はがき代

*活動費は、会員相互に関わる活動費用

なお、下記の方々は、2014年度に同窓会費を納めた方々ですが、決算報告欄に未記入の方々ですので追加いたします。（敬略）

献金の感謝とともに、深くお詫び申し上げます。

飯島多稼夫、宮内芳枝、田端勝敏、天海和彦、町田恵子、吉村瑠美子、黛藤夫、永井みよ子、堀口容子、須子都、阿部幸平、山本しづか、日名富士、尾原光彦、鬼京由紀子、杉山礼子、三友庸子、依田和子

2014年度 OBI 同窓会 会計報告

(2014.4.1~2015.3.31) 単位：円

収支	項目	予算	実績	差額
収入	前年度繰越金	213,638	213,638	0
	維持献金	190,000	117,000	-73,000
	感謝献金	100,000	65,000	-35,000
	同窓会活動費	0	36,900	36,900
	雑収入	0	25	25
	収入合計	503,638	432,563	-71,075

支出	事務・消耗品費	10,000	0	-10,000
	印刷費	0	113,388	113,388
	通信費	110,000	45,195	-64,805
	活動費（交通・会議・慶弔）	150,000	109,478	-40,522
	OBI協力献金	100,000	100,000	0
	雑費	133,638	5,000	-128,638
	支出合計	503,638	373,061	-130,577

次年度繰越金 59,502

献金者敬称略、献金日順記載		(2014.4.1~2015.3.31)	
献金者	佐藤敬	米田由起子	須子都
	戸川偕生	田中恵子	杉山礼子
	中島總一郎	窪田淳子	有田貞一
	浪井弘子	鬼京由紀子	有田美榮子
	福井ちよ	堀口容子	猪狩友行
	牧野三恵	尾原光彦	日名富子
	町田恵子	小林喜久男	阿部幸平
	三浦喜代子	田端勝敏	高沢茂雄
	森本腹	山本しづか	宮内芳枝
	吉村瑠美子	伊藤洋子	永井みよ子

複数回、献金を捧げてくださった兄弟がおられます。

献金者 38名 （同窓会費 38件 献金 13件）

会計報告 1年間のお恵みを感謝いたします。

皆様のご協力をいただきまして、同窓会も維持されました。

複数回、献金して下さった兄弟もおられ、ありがとうございました。

皆様に天からの祝福が豊かにありますように。

主にありて。

2015年4月1日

会計 吉村瑠美子、石井由紀

会計監査報告

上記の結果、会計監査を行いました。

記載内容は間違いなく正しく示していることを認めます。

2015年4月14日

会計監査 日名富子



恵みに感謝して

22 回卒業生 奥津 榮子

2015年3月7日主の恵みの内にOBIの卒業が許され、早いもので今年も柏木哲夫先生の講演会の季節となりました。6月23日「恵み・支えの双方向性」「ホスピスの原点を考える」というタイトルで素晴らしい恵みの時を頂きました。

先生はホスピスで2,500人の方々を看取り、その方の人生の総決算という場に参加させて頂いたことは特権であり、貴重な経験を通して多くのことを学びましたと語られました。

ケアの双方向性で、「支える」と「寄りそう」の方向性の違い、「下からの支え」と「横からの寄り添い」があり、経験を重ねていく中で、寄り添うケアが大切であり、ケアは患者さんに一方的に提供されるものではなく、関わりを通してケアを受ける人も提供する側も共に担い合い成長していく、与えることは受ける事でもあります。と話されました。

東日本大震災の「人と自然のコミュニケーション」で人々が海を見つめている、海にうらみつらみはなく海が慰めてくれる。海が人々をじっと見ている、人々が海をじっと見つめる。神の支配の中で人々が海を見つめ、海が人々を見つめている。「神の私たちへのまなざしを感じた」のことは、どんなに苦しい時でも神が共にいて下さる事を覚えて慰めを頂きました。

最近の洞察で「生命」と「いのち」は違う。生命は有限であり、いのちは無限である。柏木先生の大先輩である中川米造先生が亡くなる少し前に「私の生命は終焉を迎えるが、私のいのち、すなわち私がこの世に存在した意味、私の価値観は永遠に生き続けます。これまでの医学は生命を診てきたが、いのちを診てこなかった。これからいのちを診ていく必要があります。」ホスピスの原点は生命といのちの両方を診ていかなければならないことを強調されました。

ある時、末期の女性の患者さんが入院なさり、その女性は夫の悪口ばかりで、スタッフも聞くのが辛かった。体が段々弱ってきて、結局悪かったのは自分ではないか、自分にばちが当たったのだ。自分は罪人だと思うようになってきて、先生は心のケアをしなければと、牧師に介入していただき、イエスの十字架によってあなたの罪は赦されたこと、悔い改めと赦しを頂き、洗礼を受け一週間後に天に召されました。私はやはり、ルカ23章の十字架上の主イエスの隣の犯罪人を思い出しました。この女性は大罪を犯したわけではないけれど、人生の最後の時に悔い改めに導かれ、罪の赦しを頂き救われることの大切さを教えて頂きました。

柏木先生のいつもと変わらない笑顔とユーモア。体験を通しての教えとお証しの中で、ホスピスに関わる方々と入院されるお一人おひとりをどんなに愛しておられるか、主イエスがなさった体の癒しと魂の救いであるキリストの基本姿勢を学ばせて頂きました。人は誰でもホスピスに入る可能性があり、私もその一人です。人は生きて来たように死ぬと言われますが、主に感謝を捧げ、人生に関わってくださった方々に感謝を持って私の人生は幸いであったと言える様になりたいと願います。

わがたましいよ。主をほめたたえよ。

私のうちにあるすべてのものよ。

聖なる御名をほめたたえよ。わがたましいよ。

主をほめたたえよ。

主の良くてくださったことを何一つ忘れるな。

詩篇103:1, 2

より広い視野で

22 回卒業生 永澤 良子

2015年3月7日に主の恵みの内にOBI聖書科を卒業させていただき、5月18日、私にとって初めての同窓会に出席させていただきました。多くの方々が集われ、存じ上げていたものの、同窓生皆様のOBIに対する熱い思いを改めて感じ、圧倒された一日でした。このような中に私も加えていただいたことを嬉しく感謝いたしました。

OBI在学中、学院生会の朝の祈祷会に2年ほど、私も加えていただきました。折しもOBIがOCCと統合する時代の流れの中、ご講義と多くの会議にお忙しい先生方のご苦勞を拝見し、また、折にふれ状況を藤原先生がご説明下さり、共に祈りすることができたことは幸いでした。そして、昨春、OCCとOBIは統合し、私たち22回の卒業生二人は統合後、初めての卒業生となりました。学院生会祈祷会ではOBIの祈りの課題や、OCCのお働きのために、諸先生方、学院生、学院生会のために祈り、また同窓会や後援会のお働きのために名前を挙げてお祈りしていましたので皆様にお目のかかりましても、以前からの知り合いのような親しみを感じました。また、祈祷会において、私たちが何の心配もなく学んでいる背後にあって、企業も含めて、多くの方々のお祈りとささげ物によって、お支え頂いていることを知り、深く感謝いたしました。

今回の同窓会では、急展開にお話が進み、同窓会と後援会が一つになって、同窓生の交わりをはかるとともにOBIをお祈りとささげ物でお支えしようという提案がなされ、新しい歩みが始まりました。OBIの25年の歴史の中でも、めったにない大きな変わり目、節目の年とお伺いいたしました。

朝のデボーションから

「イッサカル族から、時を悟り、イスラエルが何をなすべきかを知っている彼らのかしら二百人。」

(歴代誌第一12:32a)

背景はダビデを王にしようとヘブロンに戦士たちがぞくぞくと集まった様子の中、32節の「時を悟り」のみことばから、彼らがその時を悟っていた結果、彼らの知識と判断が国家にとって必要な決断をする時の助けになった、それは今日においても大切であると学びました。

まさに今、時を得て後援会と同窓会が一つになるというのはそのようなことではなかったかと主の御業を思わせられました。ここまで後援会、そして同窓会の皆様が祈りの内に積み重ねてこられた尊いお働きに深く感謝いたし、一步を踏み出した「後援会・同窓会」を主が豊かに祝し、さらに用いられますようにとお祈りいたしております。

22回の卒業生の私たち二人は、主のお導きにより、微力ですが「後援会・同窓会」のお手伝いをさせていただくことになりました。学院生の目線から、より広い視野とバランスよく見ることを学ばせて頂き、主が私たちを今ここに置いておられることを覚えて、これからはお支えしていく側として、喜びをもってご奉仕をさせていただきたいと願い、祈っております。

キリスト者として

4 期生 佐藤 敬

東日本大震災は程度の差こそあれ、多くの人々の人生を変えました。あの時、神様がこのような者にもどのように深くご介入下さったかを話させていただきます。

4年3か月前、OBI聖地旅行の途上、ガリラヤ湖畔で震災のニュースに接しました。帰国後、事態の深刻さが明らかになるにつれ、私の気持ちは暗く、重苦しくなる一方でした。それまでは、どのような試みに遭っても、どんなに辛く、苦しく悲しいことでも、いつの時も主の最善に委ねて従う希望と平安が消えることはありませんでした。が、この時は、不本意にも、意志を働かす力も失せて、鬱の深みにはまり込んでいくようでした。主に在る喜びを感じることも出来なくなっていました。

毎日、無言で、時には涙をもって主と向き合いました。半年ほど経った頃のある日、突然、「この地を良く治めなさい。平和を作る人でありなさい。」と激しく迫られました。迫りは激しさを増す一方でした。そして一か月後、「この主の迫りに応答しないならば、私は偽善者だ。キリスト者の資格はない。この迫りを避けて、なおキリスト者と呼ばれうるなら、私はキリスト者でありたくない。」との決心に導かれたのでした。

まず、原子力の平和利用という言葉に騙されて、原発のことを何も知らない自分の無知に恥じ入り、悔い改めました。関係書物を読み漁り、学習会や講演会に参加するうち、原発が、エネルギー源、科学技術の利用の問題である以前に、軍事、

産業、経済の問題であり、対米関係の政治の問題であり、マスコミ報道、民主主義の問題、人権、倫理の問題であることを突き付けられました。問題は限りなく広がっていきました。特定秘密保護法、集団的自衛権、慰安婦、オスプレー、憲法改正、NHK榎井会長、マスコミの報道規制、日の丸、君が代、教科書問題等々、すべてが繋がりを、一つ所に集まってきます。

権力を持つ者がさらに力と富を求め、庶民もまた豊かさ、快適さを求めて、神様から託された使命を忘れて、この美しい地球を荒廃させ、汚染させてしまった原発の問題は傲慢と欲望の赴くままに突き進んだ人間のむさばりの罪の極みだと思います。

原子力は最初の採掘の段階から、発電時にも、再処理においても、その全ての工程で放射性物質を放出し続け、生態系に深刻な影響を与えてきました。高放射性廃棄物の処理、管理は非常に困難で、原発を廃止する以外に解決はありません。被爆労働者が強いられる労働条件は非道で反聖書的なものです。一度事故が起これば、何世代にもわたって取り返しのつかない犠牲を支払うことになります。こういったことを忘れることは、ご自分の命をもって愛した全ての人々が、互いを思いやり、愛し合って生きることを望まれる主のお心から遠く離れることに他なりません。

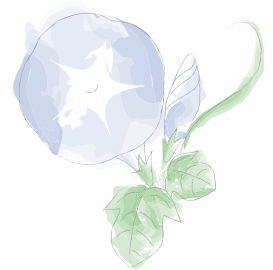
ドキュメンタリーで知った祝島に行き、島民と交わり、デモに参加しました。電力会社と地方権力の金と力に任せた暴言、暴力、報道しないメディア、見て見ぬ振りをする国を相手に、島民が文字通り、体を張って、原発の新規立地に抗議して30年以上闘ってきた瀬戸内海の美しい島です。

9条の会を通して学習を続けながら、脅かされる平和に抗議の声を上げて行進し、署名運動をし、一人でも多くの市民が真実を知ることが出来るよう街頭に立ちます。

権力者の身勝手さ、暴走には一人では立ち向かえませんが、同じ志を持つ仲間となら一緒に立ち上がることが出来ます。

ただ、なぜ教会の兄弟姉妹が一緒にないのかいつも淋しく思います。戦争か平和か、命の尊厳か富への屈服かという切迫した緊急事態の今、教会が立ち上がらなければ、一体いつ立ち上がるのでしょうか。この地を良く治めよとの神様のご命令を選び取り、平和をつくりなさいとのイエス様のお心に従うのは、まず、私たちキリスト者でなくて誰でしょう。

塩気を失わない塩であるよう、今日も主の憐みに生かされてまいりたいと祈り願っております。



主の御摂理の中で

7期生 牧野 三恵

「志の堅固なものをあなたは、全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。」

イザヤ26:3

横田早紀江さんを囲む祈り会は、2000年5月に始まり、2015年4月で150回目を終えました。毎月第3木曜、いのちのことは社の礼拝堂で祈っております。この祈禱会について振り返ってみました。

祈禱会の母体は、新潟のマグダニエル宣教師宅での「聖書を読む会」です。戦後日本に於いて「レディスランチョン」を多く開催されていたようです。増田先生の奥様も「東京レディスランチョン」の中心的働きをされておられたとお聞きました。今回、昨年で50回を数えた「新潟レディスランチョン」が、働き人不足、経費等の問題で閉じられるとの話を聞き、横田さんも私も新潟の地で信仰を頂いた者ですから「キリストの灯を消さないで欲しい」との願いと祈りで奉仕させていただきました。結果224名の参加者が与えられ主のみ名を賛美いたしました。

私は夫の転勤で1980～1984年まで新潟に居りました。一月下旬、軒にツララが長くぶらさがって、3人の子どもたちは大喜びでしたが、この雪国に親類縁者は誰一人いませんでした。しかし、神様は、近所にアメリカ人宣教師マクダニエルご夫妻を備えておいてくださいました。PTAコーラスの方の誘いで、私も宣教師宅をお訪ねし、聖書の学びを始めました。

新潟ランチョンは1971年、この地に福音を伝えるために二人の姉妹が「種蒔きをしよう」と立ち上がり主の導きのもと、リース夫人も加わり、第一回目は、本田弘慈師をお迎えしたそうです。全国的にもランチョンを伝道の場として用いられ現在も続いている所もあります。そして御言葉に触れられた方に、もっと深くフォローするために、1975年アメリカから帰国されたベギー・マクダニエル宅で、毎週水曜日に学びが始まりました。

1977年横田めぐみさんが、寄居中学校からの帰宅途中で拉致されたのです。ですから事件が起きてから祈り会がスタートしたわけではありません。ある姉妹が面識もあまりない横田家を訪ねて聖書を置いて行かれました。横田さんは、毎日裏の日本海の海岸に行っては、めぐみさんの名を呼び、泣き叫び、「死にたい、死にたい!」と気が狂ったようにさまよっておられたそうです。色々な宗教の方の誘いもあったそうです。その苦しみの中から聖書を持って宣教師宅を訪ねられ、1984年マクダニエル宣教師のもとで洗礼を受けられました。今年2月21日、マクダニエル宣教師は、横田めぐみさんのことをいのりつつも93歳で天に召されました。

36年間雪国で伝道され、多くの方々が救われ献身されました。この様に神様の導き流れの中、一宣教師の働きが、今も脈々と継承されているのです。一介の主婦の集まりが母体となって「拉致問題の祈禱会」へと導かれているのです。祈禱会は超教派で、全国、世界中に「ブルーリボン祈り会」として祈り支えられています。海外では、アトランタ、ハンブルグ、ミラノ、香港、ベルギー、シンガポール、メーアブッシュ、ノルウェー、バルセロナ、バーミンガム、ドバイと、毎月の祈禱会のCDを基本とし世界に発送し祈り支えられています。このことを思いますと、背後での神様のご摂理と御手の中に身を置かせて頂いております恵みに感謝します。

まだ拉致問題の全面解決には至っておりません。「祈りだけで良いのか?他に具体的な働きをしないのか?」という声も聞かれますが、私たちは、「神様に祈ること」しか出来ないのです。出来るだけ横田さんのおそばに居て、重荷を少しでも背負わせて頂ければと願います。

まだ解決の光は見えません。祈り続けたいと思います。お祈りの端に加えてください。神様にお委ね致します。



編集後記

5月18日に前後して開催された同窓会総会と後援会総会において、共通の議題として同窓会と後援会の統合案が審議され、それぞれの総会で統合が承認されました。それを踏まえて、新しい組織のもと、従来の「OBI同窓会ニュースレター」と後援会のニュースレター「結びの帯」を一つにすることにいたしました。今後は「OBI後援会・同窓会ニュースレター」の名前で発行してまいります。通しNoは「OBI同窓会ニュースレター」のNoに連続いたします。今号はNo39になります。

新しい名前での第1号になる39号には、新会長有田貞一兄の同窓会と後援会統合についてのお知らせ、後援会役員退任挨拶、統合に伴う事務的な報告の他、新卒業生2名の方に学びについての証し、同窓生で社会的に活動されている方お二人に、活動の中での証しを書いいただきました。

今回の同窓会と後援会の統合については、OCCと統合したOBIにどのような形で関わって行くのが良いかを同窓会、後援会がそれぞれの立場で話し合っているうちに、統合するのが最も良いのではないかと導きが与えられました。

これについて同窓会役員と後援会役員が何回か話し合いを持ち、これは神様の御心であるとの確信が与えられ、それぞれの総会で審議するため短時間で統合案がまとめられ、一気に統合まで来ることが出来ました。

その後の対外的手続き（主にゆうちょ銀行）も難問を乗り越え一番良い形でまとまりました。ハレルヤ、感謝。

(戸川)